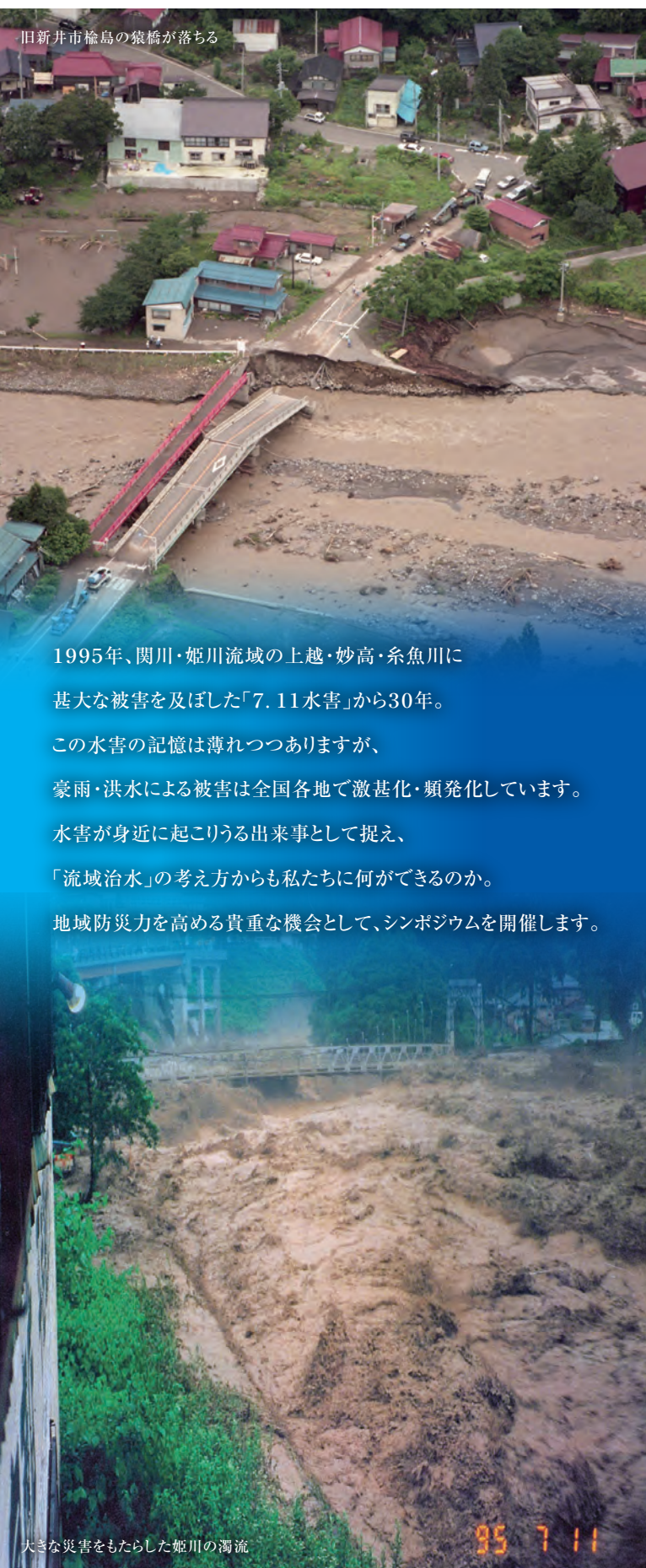




7.11 水害から30年シンポジウム

～あの日の記憶を今日につなぐ、明日の未来のために～



旧新井市楡島の猿橋が落ちる

1995年、関川・姫川流域の上越・妙高・糸魚川に

甚大な被害を及ぼした「7.11水害」から30年。

この水害の記憶は薄れつつありますが、

豪雨・洪水による被害は全国各地で激甚化・頻発化しています。

水害が身近に起こりうる出来事として捉え、

「流域治水」の考え方からも私たちに何ができるのか。

地域防災力を高める貴重な機会として、シンポジウムを開催します。

大きな災害をもたらした姫川の濁流

95 7 11

令和7年

11/23[日・祝]

13:30～16:00(予定)

[プログラム]

13:30 開会 主催者あいさつ

尾崎 誠氏

(国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所 事務所長)

13:35 基調講演①

「安全で親しみのもてる
関川・保倉川を目指して」

小池 俊雄氏

(土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター センター長)

14:05 基調講演②

「川の風景とまちづくり」

佐々木 葉氏

(早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授)

14:35 休憩

14:45 パネルディスカッション

「激甚化する水害に対して、
今、何が必要か?」

パネリスト

小菅 淳一氏(上越市長)

久保田 郁夫氏(糸魚川市長)

城戸 陽二氏(妙高市長)

佐藤 翔輔氏(東北大学災害科学国際研究所 准教授)

羽賀 正世志氏(新潟県上越地域振興局地域整備部長)

吉田 仁史氏(新潟県糸魚川地域振興局地域整備部長)

尾崎 誠氏

佐々木 葉氏

小池 俊雄氏

コーディネーター

高橋 直子氏(新潟日報社執行役員論説編集委員会委員長)

16:00 閉会あいさつ 羽賀 正世志氏



小池 俊雄氏

土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター
センター長

1956年生まれ。工学博士、東京大学名誉教授。専門は河川工学、水循環の科学、環境心理学。地球観測データ統合利用のための「データ統合・解析システム(DIAS)」の開発を主導し、河川流域から地球規模の水循環の観測や予測研究を進める傍ら、合意形成を目的とした環境評価や行動に関する心理プロセスの研究を基に河川事業に関わる合意形成の実務に貢献。

IPCCノーベル平和賞受賞貢献感謝状(2007)、中国科学院アインシュタイン教授賞(09)、日本水大賞国際貢献賞(10)、水文・水資源学会学術賞(15)、中国科学院国際協力賞および中国政府友誼賞(19)、地球観測政府間部会(GEO)個人優秀賞(20)、土木学会国際貢献賞(21)、米国地球物理学連合AGU Ambassador Award(22)、全球エネルギー水循環プロジェクト(GEWEX)第1回生涯貢献賞(24)等、多数受賞。



佐々木 葉氏

早稲田大学理工学術院創造理工学部
教授

1961年神奈川県生まれ。早稲田大学建築学科卒業、東京工業大学社会開発工学専攻修了。博士(工学)。東京大学助手、名古屋大学助手、日本福祉大学助教授などを経て、2003年より現職。専門は景観論・まちづくり・土木デザイン。公益社団法人土木学会第112代会長、NPO法人郡上八幡水の学校副理事長。共著に「土木デザイン ひと・まち・自然をつなぐ仕事」、「風景とローカルガバナンス」など。デザインアドバイザーに、天龍橋大橋(土木学会デザイン賞、田中賞)、霞橋(土木学会田中賞)、りんどう橋(登録文化財)、石巻市旧北上川かわまちづくり(土木学会デザイン賞)など。



小菅 淳一氏 上越市長

1952年生まれ。東京大学法学部卒業。1976年4月外務省入省、2017年12月の退官まで41年間勤務。外交官として、国内ではG7サミット、WTO(世界貿易機関)、OECD(経済協力開発機構)、国際協力銀行出向、OECD東京センター所長など、主に経済・経済協力を担当。在外では、ドイツハイデルベルク大学にて研修、在オーストリア大使館、仏(OECD事務局)、ベルギー(EU日本政府代表部)、在タイ大使館に勤務。その後、フランクフルト総領事、アフガニスタン大使、ミュンヘン総領事、ヨルダン大使、ハンガリー大使を務める。18年4月から23年1月まで上越市創造行政研究所所長。25年11月9日、上越市長に就任。



久保田 郁夫氏

糸魚川市長

1958年生まれ。県立糸魚川高等学校、順天堂大学体育学科卒業。80年より県内高等学校、高田盲学校の教諭、教頭を務め、2014年県立海洋高等学校校長に就任。この間、国民体育大会新潟県競技力向上対策本部にも2度従事。18年糸魚川市産学官推進企画幹となり、19年新潟食料農業大学客員教授称号授与。25年4月糸魚川市長に就任。



城戸 陽二氏

妙高市長

1967年生まれ。県立高田高等学校、千葉大学法経学部法学科卒業。90年、旧妙高高原町役場入庁。市町村合併に伴い、2005年妙高市役所入庁。危機管理室長、スキー国体推進室長、観光商工課長を歴任。22年11月妙高市長に就任。



佐藤 翔輔氏

東北大学災害科学国際研究所
准教授

新潟県生まれ。県内に大きな被害をもたらした2004年「7.13水害」、「新潟県中越地震」を体験。京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了、博士(情報学)。東北大学災害科学国際研究所・助教を経て、17年11月より現職。主な専門は、災害情報・災害伝承。科学技術分野の文部科学大臣表彰・若手科学者賞、地域安全学会年間優秀論文賞など多数受賞。保倉川放水路対策・防災まちづくり検討部会・委員、NIPPON防災資産・選定委員長(内閣府・国土交通省)、国土交通省東北地方整備局・震災伝承施設連絡会議座長なども務める。主な著書に「楽しい調べ学習シリーズ『災害伝承の大研究』(PHP 研究所)」など。



羽賀 正世志氏

新潟県上越地域振興局地域整備部
部長

1990年4月、新潟県採用。2021年4月、上越地域振興局地域整備部副部長。23年4月、新潟地域振興局地域整備部副部長。24年4月、津川地区振興事務所長。25年4月より現職。「7.11水害」発生時には、糸魚川土木事務所(現糸魚川地域振興局)に勤務し、姫川の水害で被災した国道や県道の復旧に従事。



吉田 仁史氏

新潟県糸魚川地域振興局地域整備部
部長

1992年4月、新潟県採用。2013年4月、上越地域振興局地域整備部計画調整課計画専門員。21年4月、上越市都市整備部長。23年4月、新潟地域振興局津川地区振興事務所次長。25年4月より現職。



尾崎 誠氏

国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所
事務所長

1990年4月、建設省北陸地方建設局入省。2013年10月、高田河川国道事務所直江津国道維持出張所長。19年4月、金沢河川国道事務所副所長。21年4月北陸地方整備局防災室長。23年7月、石川県白山市副市長。25年4月より現職。

パネルディスカッション

コーディネーター

高橋 直子氏

新潟日報社 執行役員 論説編集委員会委員長